

4. 評議員会

第1回 令和3年6月20日(日) ※書面開催※

15. 令和2年度事業報告
16. 令和2年度決算報告
17. 監事による監査報告
18. 新理事、新監事の専任
19. 定款の一部改正

第2回 令和4年3月31日(木) ※書面開催※

1. 令和3年度下半期事業報告
2. 令和3年度一次補正予算案
3. 令和4年度事業計画
4. 令和4年度当初予算案
5. 令和4年度就業規則、給与規定変更
6. さいたま市監査指導、消防署立入検査報告
7. 養護老人ホーム富士見園の大規模修繕計画

5. 目標に対する自己評価 <三恵会>

法人 目標①	高齢で普通の生活が出来なくなった人達に対して「あたりまえの生活が出来るように支援していく」と云う法人理念に則り、お年寄りとそのご家族を支援していく。
重点課題	関係者とのコミュニケーションを深め、相互理解と共通目標の確認をしていく。
評価	新型コロナウイルスは引き続き流行しており各施設で面会制限、行事縮小を継続して実施した。面会に関してはさいたま市において「まん延防止等重点措置」以上の場合のみ全面的に面会を制限したが、それ以外の期間は面会可能としご家族との会話を楽しんでいただけた。

法人 目標②	特別養護老人ホーム三恵苑および養護老人ホーム富士見園の建替え計画を進める。
評価	特別養護老人ホーム三恵苑に関しては一時保留とし、養護老人ホーム富士見園を建替えではなく大規模修繕とした。既にさいたま市と調整を進めており、令和4年度に申請を行い令和5年度に修繕の実施を行う計画とする。

特別養護老人ホーム三恵苑事業報告

1. 事業概要

人生の最後を悔いなく、楽しく送って頂けるように。そして『あたり前な生活ができるように』特養入居者 76 名と短期利用者 4 名のお年寄りの生活を支援しています。

2. 月間利用者延人数（特養・短期合計）

令和 2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	2,319	2,443	2,359	2,374	2,393	2,356	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	28,087
2,452	2,378	2,324	2,228	2,115	2,346		
令和 3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	2,352	2,393	2,276	2,385	2,328	2,280	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	28,155
2,396	2,343	2,439	2,423	2,189	2,351		

3. 退所の状況

退所者 25 名（昨年度 22 名）

性別	年齢	介護度	退所理由	性別	年齢	介護度	退所理由
女	87歳	5	苑にて逝去	女	93歳	3	苑にて看取り
男	72歳	4	療養入院	女	94歳	5	苑にて看取り
男	75歳	4	病院にて逝去	女	93歳	5	苑にて看取り
女	91歳	5	病院にて逝去	女	93歳	5	苑にて看取り
男	77歳	4	療養入院	男	81歳	4	苑にて逝去
女	82歳	5	病院にて逝去	男	72歳	3	病院にて逝去
男	81歳	5	病院にて逝去	男	85歳	5	病院にて逝去
男	84歳	3	療養入院	女	100歳	3	病院にて逝去
女	82歳	5	療養入院	女	88歳	3	苑にて看取り
男	82歳	4	病院にて逝去	男	91歳	5	苑にて看取り
女	85歳	5	苑にて看取り	女	86歳	5	苑にて看取り
女	90歳	4	苑にて看取り				
女	89歳	4	病院にて逝去	退所者平均年齢 85.84歳			
女	93歳	5	苑にて看取り	看取り 今年度 10名(昨年度 8名)			

4. 入居者の年齢構成

（4月1日時点）

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均	最高齢
男	2	0	7	5	3	2	0	0	80.58	91
女	3	3	8	11	11	11	5	1	84.79	101
計	5	3	15	16	14	13	5	1	83.68	101

5. 入居者の介護度別人数

（4月1日時点）

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
令和2年	3	4	27	27	15	3.62
令和3年	3	3	26	29	11	3.58

6. 月別入・退所者状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
在籍	75	75	76	74	71	74	74	76	75	75	75	75			
入院者	4	2	4	3	1	3	1	1	1	1	1	3			
入所	男	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	5	18
	女	0	1	1	2	3	1	2	1	1	0	0	1	13	
退所	男	0	1	2	3	0	0	0	0	1	2	0	1	10	25
	女	1	1	0	3	2	2	1	2	0	0	1	2	15	

7. 職員の状況

(特別養護老人ホーム・短期入所事業所の合計 4月1日時点)

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1			男	社会福祉主事
事務員	1			女	衛生管理者、ヘルパー2
事務員	1		○	女	
事務員		1		女	社会福祉主事
相談員	1		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
ケアマネ	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
主任	1			男	介護福祉士
リーダー	1			男	介護福祉士
リーダー	1			女	介護福祉士
介護職	9			男	介護福祉士
介護職	5	3		女	介護福祉士
介護職	1			男	介護職員実務者研修
介護職	1	1		女	介護職員実務者研修
介護職		3		女	介護職員初任者研修
介護職	1			男	
介護職		1		女	
看護師		3		女	正看護師
看護師	3			女	准看護師
栄養士	1			女	管理栄養士
介助員		2		男	
洗濯		3		女	
宿直員		3		男	
合計	29	20	介護職員:入居者数 = 1 : 2.66		

9. 目標に対する自己評価

特養 目標①	入居者一人一人の気持ちに寄り添い、入居者が笑顔で生活を楽しんでいただけるよう努力する。
重点課題	入居者を敬い、思いやりの気持ちを忘れずに接することを心がける。また入居者が家族とのつながりをしっかりと保てるように様々な工夫を凝らし実践する。
評価	介護職員の人手不足、新型コロナウイルスの再流行と現場職員は大きな負担と時間的余裕がない中においても、職員全員で助け合い“思いやり”を持った行動ができていた。また新型コロナウイルスの影響で面会や行事等において様々な制限がある中、入居者が笑顔で生活できるように企画し実施した。
特養 目標②	職員が安心して安全に働けるように施設の環境を整備していく。
重点課題	施設の老朽化している部分の修繕や機器の整備を行う。また職員の身体への負担を軽減するため、福祉機器の有効活用に努め、職員が安心して長く働ける職場環境をつくっていく。
評価	少しずつ介護職員の身体介護以外の業務における効率化を進めている。主に紙媒体の報告書、申請書をすべてデータ化することで報告関連の業務を効率化している。今後も無理のない範囲で業務効率化を図り、余裕をもって身体介護が行えるよう推進していく。
介護【1階】 目標	1. 毎日笑顔で過して頂ける環境を整備する 2. 入居者の安心・安全な生活を確保する
重点課題	1. 入居者が何を求めているかを推察し行動する事で、満足した生活を送って頂き笑顔の絶えない日々を過ごしてもらう。 2. 目配り・気配り・心配りを密にする。また、人為的ミスを限りなくゼロにできるようにしていく。
評価	コロナ禍で面会や行動制限がある中、出来る限り利用者の気持ちに寄り添い笑顔も相応に頂けたと思う。また小さな人為的ミスから事故に繋がってしまったケースもあり目標達成はできていないが、一手間二手間かけ対応する等、各々が事故予防の意識を持ちミスを減らせるよう努めた。今後も制限を強いる期間は継続されるが、一層笑顔になってもらえる対応をしていきたい。
介護【2階】 目標	1. 入居者様が笑って過ごせる雰囲気をつくり、楽しく生活を送れるように援助する 2. 常に認知症ケアを学び続け、一人ひとりに合ったサービスを提供する
重点課題	1. 指示的な言動はさけ、入居者の立場、思いを考えながらサービスを提供する 2. 認知症の知識・技術を高め、色々な視点から利用者様に合った介護を行う
評価	入居者に寄り添う介護を行っているが年度末になるにつれ退職職員が続き、入居者には排泄介助の時間を調整するなどの不便をかける事があった。また職員の心の余裕が持てなくなならない様に目配りが必要な状態でもあった。外部研修参加もコロナ禍と職員数減少の為、余り参加できなかった。

<p>医務室 目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策と対応について 2. 利用者と職員の健康管理
<p>重点課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍にある現状で、感染対策の徹底と状況の変更に対して一早く判断・対応・指導し感染防止に努める。 2. 利用者の健康状態の把握に努めながら、穏やかに生活が出来る様に支援する。また、職員の健康管理にも留意する。
<p>評価</p>	<p>コロナ禍での感染対策については指導・対応に努め、各職員の徹底した感染対策において苑内での感染者は0人だった。入居者の健康状態について、的確に判断し早期対応できた。職員の健康管理面でも留意でき、今後も職員が健康に仕事できるように努めたい。</p>
<p>厨房 目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食中毒防止、従業員の感染症予防の徹底 2. 日常の食事の他に行事食などを行う事で食生活に変化をもつて頂き、施設生活の充実を図る。 3. 食事摂取基準を満たす献立になるよう給食業者と協力し、利用者の生活習慣病等の予防・改善に努める。
<p>重点課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. マニュアルに基づき衛生管理を徹底し、食中毒を予防する。また、従業員間の感染症対策を徹底する。 2. 毎日の食事や行事食など、楽しみを持つような食事作りを行う。また、利用者様のご希望も積極的に取り入れていく。 3. 各部署と連携をとりながらご利用者の体調の変化に合わせた食事を提供し、実態に即した栄養状態の管理をする。
<p>評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的に研修を行い、衛生管理に関する知識を定着することができた。感染症対策においてはマニュアルに基づき、状況の記録をすることにより意識付けができた。 2. 行事食、選択食、ご当地料理等、目先の変った食事を取り入れ、飽きのこない食事を提供できた。 3. 食事の改善が必要な時にミーティングをすることが難しかった。特に看取り時期の食事に関して、多職種で検討しあっていきたい。

4)退所事由別

R3 年度分

年齢 性別	死 亡	施設替え (特定施設等)	入 院 (措置切れ)	家庭復帰	計
男	4	2	0	2	6
女	1	2	0	1	3
計	5	4	0	3	9

5)入園前の居所別

R4.3 末現在

居所 性別	家 庭						小計	病院 老健	施設 (救護) (厚生) (身障)	その他	計
	配偶 者	子供	兄弟 姉妹	その他 の親族	ひとり 暮らし	その他 雇主等					
男	1	3	0	0	24	1	29	1	1	4	35
女	0	8	3	4	31	0	46	2	0	0	48
計	1	11	3	4	55	1	75	3	1	4	83

6)在園期間別

R4.3 末現在

居所 性別	1年 未満	1年	2年	3年	4年	5年	6~9	10~ 14	15~ 19	20年 以上	計
男	2	5	2	3	7	2	7	5	2	0	35
女	5	6	0	4	5	6	9	7	6	0	48
計	7	11	2	7	12	8	16	12	8	0	83

平均在籍年数 7.3 年

7)入所事由別

R4.4.1 現在

理由 性別	住宅 事情	身体 障害	精神 障害	病弱	家庭 不和	老齡 単独	経済的 理 由	その他	計
男	1	1	4	1	0	7	17	4	35
女	7	0	8	0	8	8	17	0	48
計	8	1	12	1	8	15	34	4	83

8)介護保険認定状況

R4.4.1 現在

区分	要支援 I	要支援 II	要介護 I	要介護 II	要介護 III	要介護 IV	要介護 V	合計
男	3	3	7	3	3	0	0	19
女	3	4	9	9	3	1	1	30
計	6	7	16	12	6	1	1	49

3. 目標に対する自己評価

富士見園 目標①	施設整備計画を具体的に実行して行く
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備計画を具体的に立案、実行して行く ・施設の維持管理を計画的に実施して行く
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備を進める為に行政に働きかけは行ってきた。法人内で協議した結果「大規模修繕」で計画していくこととなった。 ・「大規模修繕」で話しを進めていくが、日々老朽化は進んでおり修理不可能な箇所も多数発生している。利用者に危険が及ばないよう安全に生活できるようその都度対応を行った。
富士見園 目標②	自立した生活が継続できるよう支援して行く
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別計画に基づき個々にあった生活・介護支援を行う ・利用者が安全で快適に生活できるよう支援して行く
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の残存機能が低下しないよう声掛け・見守りを行い支援してきた。 ・コロナ禍という事もあり集まったのレクリエーションは行えなかったが利用者とのコミュニケーション図り個々の希望(塗り絵・パズル・編み物等々)は実現できるように対応してきた。
富士見園 目標③	職種に応じた研修会参加を計画し全職員のスキルアップを図る
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画に基づき全職員の研修会等への参加を実施し職員の専門的知識・技術の習得、資質の向上に努めます。リモート研修に参加できる環境づくりを検討していく。 ・各職員の「チャレンジプラン」での能力開発目標に基づき、職員の資格取得やスキルアップのための研修会・講習会への参加を推進する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの研修が対面研修ではなくリモート研修だった。職員も経験がなかった為、多数の職員に参加してもらう事ができた。 ・普段業務を行っている際に思う疑問や困っていること、利用者への対応等を議題にし、毎月1回ミーティングを行い問題解決した。今後も継続していく。
富士見園 目標④	防災体制・感染予防対策の整備強化を実施する
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる災害に対応できるよう防災対策の整備と強化を図る ・災害時に必要な給食給水及び資機材配備の整備を行う ・緊急時の対応が迅速且つ的確に実施出来るための訓練・講習会を実施する ・感染予防対策の強化と見直しを行う
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策委員会を定期的に開催し感染予防の徹底を図ってきた。職員の濃厚接触者・家庭内感染は数件みられたが利用者が感染することはなかった。 ・災害時に使用する発電機整備・備蓄品等の確認を行った。

富士見園 目標⑤	地域に密着した福祉拠点を目指して行く
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の拠点として施設の役割、機能を最大限発揮して行く ・地域との交流を積極的図り、地域との連携と協力体制をより深めて行く ・介護体験や社会化体験などを目的とした研修生、実習生を積極的に受け入れて行く。またボランティア等の活動についても内容、目的など調整し受け入れて行く。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防で行事は施設単独での開催となった為に地域の方との交流は果たせなかった。 ・ボランティアの受け入れについても中止した。

2) セクション別 目標に対する自己評価

養護 目標	ADL の低下を防ぎ、一日でも長く安心して生活できるよう自立に向けて支援して行く
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の状態を把握し、各セクションと連携を取りながらその方にあった支援をして行く。 ・コロナ禍で行事・外出等も制限があり、ストレスも溜まっていると思われる為、園で楽しく生活してもらえよう工夫して行く。 ・感染症対策を徹底する。
評価	個々の支援に関してはその都度適切な支援を行ってきた。コロナ禍だが一時的に外出を解禁できたがその後感染状況悪化で外出禁止となった。園内で楽しめるものをもう少し提供できればよかった。利用者にコロナ罹患者がでなかったのが感染症対策はできた。今後も継続していく。
特定 目標	利用者の意思、自己決定を尊重した生活支援を行う
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングとアセスメントから個々のニーズを把握する ・信頼関係の維持 ・報・連・相の徹底
評価	認知症の進行があり意思疎通が難しくなっている方との信頼を築きながら支援を行った。新規提供者 4 名の方々のニーズを把握しその方の意志を尊重しながら援助を行ってきた。
訪問 目標	お一人おひとりの特徴を把握し安心して生活できるようお手伝いして行く
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人の特質を知る ・食事を無理なく摂取 ・体を動かす工夫
評価	ひとり一人の特質は十分把握できているが対応が不十分だった。食事に関しては個人の摂取方法に合わせ声掛けし摂取不良の方は少なかった。体を動かす事は概ねできていたが全体的に ADL 低下により対応の見直しを検討していく。

医務 目標	感染症罹患者を出さない
重点課題	<p>感染症対策の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、含嗽、手指消毒の励行 ・不要不急の外出は自粛していただき、通院時のマスク着用、不必要な寄り道を自粛していただく ・在園者の新型コロナウイルスに対するワクチン接種 ・食事摂取や入浴、ラジオ体操等で抵抗力・免疫機能を上げる ・1日1回の館内消毒 ・職員自身の健康管理
評価	利用者からはコロナウイルス感染者の発症はなかった。職員からは発症者・濃厚接触者がでたが家庭内感染ということを考慮すると避けることは非常に困難であるとする。重点課題にそれぞれが努力し行えた。
厨房 目標	ひとりでも多くの方にご満足いただける様な食事作り
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理 ・報告及び連絡の徹底 ・在園者の状態把握
評価	基本目標については嗜好調査の結果や日々のお声を聴き引き続き務めていく。重点課題については厨房内である程度の成果はみられたが今後も継続していく。

特別養護老人ホームひかわ事業報告

1. 事業概要

- 1) 入居者、一人ひとりに合った援助を心がけ、ひかわでよかったと、入居者とその家族に思ってもらえるよう努力します
- 2) 施設の全体行事として、あおぞら市・納涼大会・敬老会を行なう

2. 月間利用者数 (特養、短期合計)

令和 2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	3,514	3,585	3,435	3,540	3,477	3,339	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	3,493	3,432	3,613	3,577	3,289	3,620	
令和 3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	3,282	3,238	3,245	3,417	3,439	3,183	39,585
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	3,243	3,067	3,433	3,520	3,122	3,396	

3. 退所の状況

退所者 31名 (昨年度 24名)

性別	年齢	介護度	退所理由	性別	年齢	介護度	退所理由
女	95	4	ひかわにて看取り	女	90	1	入院中に死亡
女	99	4	入院中に死亡	男	86	2	ひかわにて看取り
男	78	5	ひかわにて看取り	男	84	4	入院中に死亡
女	87	5	入院中に死亡	女	94	4	療養病院
女	91	4	入院中に死亡	男	86	3	入院中に死亡
女	95	5	入院中に死亡	女	100	1	療養病院
男	89	5	入院中に死亡	女	91	3	ひかわにて看取り
男	89	3	入院中に死亡	女	95	1	入院中に死亡
女	91	3	療養病院	女	99	4	入院中に死亡
女	98	5	ひかわにて看取り	男	92	3	入院中に死亡
男	93	3	入院中に死亡	女	85	3	入院中に死亡
女	96	4	入院中に死亡	男	81	4	入院中に死亡
男	89	3	ひかわにて看取り	女	86	4	ひかわにて看取り
女	96	3	ひかわにて看取り	女	88	3	ひかわにて看取り
女	86	5	入院中に死亡				
女	90	5	療養病院	退所者平均年齢歳 88.33 歳(昨年度 90.6)			
女	83	3	入院中に死亡	看取り 昨年度 6名 今年度 9名			

4. 入居者の年齢構成

(4月1日時点)

	60~	65~	70~	75~	80~	85~	90~	95~	100~	平均	最高齢
	64	69	74	79	84	89	94	99	~		
男	0	0	1	5	4	8	5	2	1	85.8	100
女	0	1	2	4	7	25	25	14	4	89.1	104
計	0	1	3	9	11	33	30	16	5	88.4	

5. 入居者の介護度別人数

(4月1日時点)

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	人数計	平均介護度
令和2年	7	15	44	25	18	109	3.29
令和3年	8	12	43	26	18	107	3.32

6. 月別入・退所者状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
在籍	107	106	104	106	104	102	100	100	106	109	109	110			
入院者	10	17	11	8	7	8	9	11	9	6	10	13			
入所	男	1	1	0	2	0	1	0	1	2	2	0	0	10	31
	女	1	1	2	1	0	3	2	2	4	2	1	2	21	
退所	男	2	1	0	0	1	4	2	0	1	0	0	1	12	31
	女	1	3	1	3	4	0	1	1	1	1	0	2	19	

7. 職員の状況 (特別養護老人ホーム、短期入所事業所の合計)

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1		○	男	介護福祉士、社会福祉主事
事務長	1			女	社会福祉士、衛生管理者
事務員	1			女	簿記検定1級
相談員・ケアマネ	3		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
相談員・ケアマネ	1		○	女	介護支援専門員、社会福祉士
ユニットリーダー	2			女	介護福祉士、ユニットリーダー研修
ユニットリーダー	2			男	介護福祉士、介護支援専門員
ユニットリーダー	3			男	介護福祉士、ユニットリーダー研修
ユニットリーダー	5			男	介護福祉士
介護職	16	7		女	介護福祉士、介護支援専門員(1名)
介護職	11	0		男	介護福祉士
介護職	1	0		女	介護職員実務者研修
介護職	0	1		男	介護職員実務者研修
介護職	6	18		女	介護職員初任者研修
介護職	3	0		男	資格なし
介護職	1	6		女	資格なし
看護師	2	0		女	看護師(1名派遣)
看護師	3	1		女	准看護師(3名派遣)
栄養士	1	1		女	管理栄養士
介助員	0	3	○	男	宿直兼務(1名)
宿直員	0	2		男	
合計	63	39	介護職員 : 入居者数 1 : 1.73		

8. 目標に対する自己評価

<p>特養 目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 24Hシートを適切に更新し有効活用をして、入居者一人ひとりの当り前の生活を実現する。 コロナ禍の中、インターネット等の最新技術を活用して、入居者が施設内でも楽しく活動的に過ごせるよう工夫する。 入居者の日々の小さな変化やヒヤリハットに着目して重大事故を防ぎ、入居者にとって急激且つ悪い変化が起こらないようにする。
<p>評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 各ユニット更新はできているが、担当職員によっては更新が1~3か月遅れることがある。出来ていない場合には、相談員が伝えて遅れないよう注意する事もあった。24Hシートの更新時には看護師にもコピーを渡すようにしている。一年に一回の更新はできているようだが、入居者の状態が更新のタイミング以外で変わってしまったときには変えられていない状況がある。ユニットでの24Hシートの情報共有についてはまだ十分とは言えないが、必要に応じて参照するなどある程度活用はできていると思われる。 入居者からは「画面が見えづらい」、「一人でしか見えない」という意見があり、4階ではあまり活用されていない。3階では活用する入居者が増えてきている。昔流行った歌手の歌やドリフターズ等の動画を見ていることが多い。鉄道の動画を見てもらう事も活用できている。2階では2台使用している。(一台はユニットの私物)歌を流し聞く事が多いが、趣味の競馬やマラソンの動画をみる事もある。 口頭やノートなどの書面によりユニット中の情報共有は出来ているが、小さな変化が重大事故につながる危険についての意識は決して高くはない様子。ヒヤリハットの件数はある程度上がってきている現状ではあるが、骨折事故などの重大事故も起きており事故予防につながっているかどうかは不明な所もある。 <p><入居者に対する言葉遣いなど接遇について></p> <p>一部不適切な対応があったとの意見があり接遇についてのアンケートを実施した。口頭や書面などの注意だけでは改善が難しく悩むところが多かった。ユニット共用部分にカメラ等を付けて意識付けをしていくことは必ずしもマイナス面だけでなく職員にとっても気持ちが引き締まるきっかけになる可能性もある。新型コロナウイルスの流行によりご家族の面会や外部のお客様の来所がない今、どうしても職員の気のゆるみが生まれやすい環境が出来てしまっているのも問題である。</p>
<p>医務室 目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 入居者の人間としての尊厳を維持し、健康で幸福でありたいという普遍的なニーズに応える。 看護における日々の研鑽に努める。 看護職が安心して働き続けられる環境づくり。
<p>評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 尊厳を維持する努力は出来ていたと思われる 健康面に関して判断が困難な時に迅速な行動がとれるよう努める。 日々の業務に追われ達成出来ず。 退職者が多く出てしまった。

<p>厨房 目標</p>	<p>(食事サービス部門)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食材の調理法を工夫し、キザミ食の入居者でも、可能であれば形のまま提供できるように努力する。 2. 食中毒防止の為、厨房内の清掃の徹底と、従業員の衛生教育及び健康管理に勤める。 3. 入居者の嗜好を把握し、定期的な献立の見直しや新メニューを取り入れることにより、喫食量の向上と、献立のマナー化防止を目指す。 4. 四季に応じて旬の食材を献立にとり入れる。 <p>(栄養管理部門)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入居者、個々人の栄養状態及び嗜好の把握をする事により、喫食量の向上と健康面の安定を図る。又、好物の把握を終末栄養に活用していく。 2. ユニットの特性を生かし、ユニット単位の料理・菓子作りの企画と協力。 3. カンファレンス等により、他職種との連携を図り、栄養業務に生かしていく。又入居者個人の食の意向をつかんでいくことにより、食事量減退時や看取開始時に生かしていく。 4. 嚥下調整食分類 2013 に基づく当施設の食態分類の構築
<p>評価</p>	<p>(食事サービス部門)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 刻み食の方に軟らかく煮えた食材をそのまま提供出来ることもあったが、調理方法を更に工夫する事でより多くの料理を形のまま提供出来たと思う。来年度も引き続き目標とし、多くの食材を形で提供出来るよう努める。 2. 食中毒防止のため厨房内の清掃を日常的に行った。また新型コロナウイルス感染予防対策を遵守し厨房内から感染者を出さないよう努めた。厨房の扉の閉め忘れを指摘されることのないよう、従業員全員で注意し業務を行った。 3. 今年度も新型コロナウイルスの影響で出張料理はできなかった。直接入居者の反応を伺うことはできなかったが、各ユニットからの意見書をもとに献立会議で要望や問題点を共有しより良い食事提供に向けて話し合うことができた。 4. 旬の食材を使用し入居者に季節を感じていただけるような献立を取り入れ、喫食量の向上と献立のマナー化を防止できた。 <p>(栄養管理部門)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他職種からの情報収集や食事の様子観察、食の傾向把握に努めた。入居者とも積極的にコミュニケーションをとり、食に対しての不満や要望も聞き取ることができた。摂取量の低下時や体重減少時には迅速に栄養介入していく。 2. 自粛生活の中、外出やご家族との面会が思うようにできない入居者にとって、食事レクは大きな楽しみの一つであり、多くの入居者の笑顔を見ることができた。また、一番近くで関わるユニット職員が主体になって計画・実施されるため、より喜ばれるものとなり、職員にとってもやりがいを感じられるものとなっていると思われる。今後も衛生面には十分配慮しながら実現できるよう協力していく。 3. 普段から他職種とのコミュニケーションや情報共有に努め業務が行えた。 4. 食事形態一覧表を作成し保健所の情報交換会にて情報提供を行った。病院や他施設の情報を参考にしながら今後も見直しを行っていく。

A-1 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. イベントの見直しと、運動系レクの充実により、運動不足、ストレス解消を目指し、今の生活の中で個人に合った楽しみを見つけ支援する。 2. 情報共有を円滑化し、ファイル転載を徹底する。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二つのユニット目標について概ねできていたという意見が多かったが、運動系のレクに関しては少し不足していた。個人に合ったレクもできていた人とできていない人の差があった。 2. 情報の共有は少し前進した感があるが、まだ転載ができていないで終わってしまったこともある。
A-2 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ノートやアセスメント表をもっと上手に活用し、情報共有の徹底に努め、ユニットとして同じ方向性をもってケアを行っていく。 2. 日々の生活が楽しいと思えるようなイベントを、積極的に行っていく。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. ノートやアセスメント表の活用はある程度はできていたが、通常業務が大変になってくるとノート、アセスメント表の活用がおろそかになっていることがあり、引き続き活用できるよう努力する必要がある。 2. イベントに関しては多くはないが、以前より行うことができたと思うが、もう少し増やせるように努めていく。
A-3 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体調の変化にすぐに気付けるよう、日々観察を怠らない。 2. 情報共有をし、統一したケアを行う。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユニット内全員同じ方向性で、対応も間違いが少なかったと思う。また観察を怠らなかったことで、守れた命もあったと思う。 <<反省点>> 変化に気づきヒヤリハットをあげ周知していたが、転倒や事故につながってしまうことがあった。危険予測はできていたが予防できるものや介護用具などを検討すべきだった。 2. ユニット内は共有でき統一できていた。他職種へも細かく報告に努めた。 <<反省点>> 伝え方を磨く必要があった。
A-4 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入居者の日々の変化に早く気づき対応し、ストレスなく毎日楽しく笑顔で生活できるユニット作り。 2. 職員間、常に話し合う環境をもち、情報共有を図り、それらをいかし温かなユニット作りを目指す。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入居者の変化について適宜話し合い情報共有を図れた。他業種とも連携をとれていた。毎月のレクも多く実施でき、日々の生活の中にも入居者一人ひとりにあった楽しみを見つけて笑顔で生活していただけたと思う。一方で業務を優先してしまったり、一人の入居者を優先して対応してしまうことで入居者の訴えにすぐに対応できないこともあった。 2. 情報共有はおおむね図れていたが、ユニット職員全体で話し合う場はなかなかもてなかったのもので、ノートの活用を図っていきたい。

B-1 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ペアユニットを含む職員間・他職種との情報共有や申し送りのミスを無くす。 2. 限られた時間の中でも丁寧なケアを行っていく。 3. 個々の生活スタイルに合わせた余暇活動や楽しめるレクリエーションを行い、ご家族へ取り組み内容に関して発信をしていく。 4. 整理整頓等の環境整備に取り組み業務を行いやすくすると共に明るいユニットを作る。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝え忘れ等の申し送りミスは時折みられた。特にペアユニットの情報に関しては把握が十分ではなかったと思う。入居者ファイルを細目にチェックする習慣が根付かず、ミスを無くすことには至らなかった。ただ情報共有については入居者ファイルを見返す事で決定事項等の再確認が出来た為、良い面もあった。 2. 今年度は入居者の入れ替わり(退所と入所)が多くあった。新入居者と接する中でスピーチロックが増えてきており、改善しなければならない。入居者個人の希望でユニット移動した方もいた為、達成には至らなかったと思う。 3. コロナ禍であり制限はあるものの、可能な範囲でレクリエーションや余暇活動の機会を提供できた。ただし、余暇活動のバリエーションを増やす事も考える必要がある。ご家族に対しては直接会う機会がほとんどなかった為、手紙、写真、DVDを送付して状況報告をした。 4. 不必要な物は破棄、書類は細目にファイリング、入居者の私物やユニット備品等は棚を活用して整理整頓に努めた。
B-2 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入居者の趣味嗜好を理解し、穏やかに過ごせる環境を提供できるユニット作り。 2. QOLの向上をめざし、訴えのない入居者の思いの汲み取りもできるユニット作り。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別ケアという意味では、各入居者の生活ペースで過ごして頂ける支援が出来たと思う。また、限られた時間内で、入居者が何を考えているのか、何を望んでいるのかを察知し、思いを汲みとり対応する事で、笑顔が増え、職員と入居者の距離が縮まったと思う。 2. 職員からの繰り返しの声掛けや介助で、車椅子上の姿勢直し等出来なかった方が出来るようになった入居者がいた。反面 QOL を理解していなかった職員や、訴えの言える入居者が主になっている状況があり、QOL や訴えの言えない入居者への対応方法について、改めて職員間で考える必要性があると感じた。
B-3 ユニット 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時間を見つけ、入居者一人ひとりと目線を同じにして、コミュニケーションをとる機会を設ける事で、入居者の事を理解して生活しやすいユニットにする。 2. 接し方、コミュニケーションの基本を守りつつ、業務を効率的に行い、コミュニケーション・支援に時間を使えるように努めていくと共に、状況に合わせてながら臨機応変に入居者との信頼関係を築いていく。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務が忙しい事を理由に時間をかけてのコミュニケーションを十分に設けられなかった。感情的になってしまう場面もあったのも反省点である。訴えが多い入居者ばかり優先となってしまうまいようにしていく事も課題である。 2. 職員が充実している時間帯ではコミュニケーションは取れていても、入居者の状態や、職員が一人の時は難しい状況があった。余裕のない時でも、目標を念頭

	におき、入居者との信頼関係の構築に力を入れていきたい。
B-4 ユニット 目標	<p>1. ユニット会議への取り組み。 年4回以上、ユニット会議を実施する。上半期、下半期で進捗状況の修正と評価をし、上半期、下半期の1回以上は他職種の参加調整をする。会議を通して、居室担当としての入居者の状況をしっかり把握し、優先状況を見て調整、引継ぎをし、個別のケアに繋げていく。</p> <p>2. 当たり前の生活から、入居者の「楽しい」、「美味しい」等の「思い」の具体的な取り組み。 ・毎月の食関連の行事の企画(誕生日)。 ・日々の散歩、体操、レク等の充実。 ・ご家族との連携から、嗜好品等の依頼や、購入、提供する。</p> <p>3. 食堂、リビング(模様替え)での取り組み。 ・食堂、リビングで過ごす時に少しでも刺激があり、安心、安全な環境を提供する。</p>
評価	<p>1. 年4回ユニット会議を実施し、委員会(事故防止)からの定期的な事故統計の確認や、他職種が会議に参加する事で専門的な意見等あり、少しではあるが介護の質の向上に繋がった。</p> <p>2. 個別でのお菓子の提供や、バラエティーに富んだ飲み物を準備し提供した。散歩や体操は実施していたが、充実とまではいかななかった。反面、日常的な軽作業などについては、入居者と共に取り組む事ができ、月一回の行事(主に食事レク)は入居者の楽しみに繋がっていたと思う。</p> <p>3. 食堂やリビングで過ごす時間を設ける事を心掛けながら、ソファーやテーブルの位置の変更も行い、環境変化への取り組みを行えた。食事の席については、固定せずに状況や声掛けを行い違い席での食事誘導への取り組みも行った。席の変更や模様替えなどは、もう少し職員同士で意見を出し合えたらと思う。</p>
C-1 ユニット 目標	<p>1. 毎日の生活の中にリハビリや個別ケアをする機会を作る。</p> <p>2. 日々の生活の中で楽しみを見いだせるように支援を行う。</p> <p>3. できるだけ本人の希望に沿う生活を支援する。</p>
評価	<p>1. リハビリができる日とできない日の差が多くあった。</p> <p>2. 集団体操など日課があり、体操後に他の入居者と談笑されることが多くあり支援ができていたと思う。</p>
C-2 ユニット 目標	<p>1. コロナ禍でストレスが溜まりやすいため、ユニットレクリエーションを行い笑顔ある生活が送れるように支援する。</p> <p>2. 居室担当を中心に個別ケアができるように情報共有を行う。</p>
評価	<p>1. 毎月レクリエーションの提供はできていた。「食べる」レクリエーションが好評なので調理やおやつレクを中心に実施できていた。</p> <p>2. 「申し送り」での情報漏れがないように意識していたこともあり、情報共有は行っていた。個別ケアは訴えの多い入居者中心になっていた。</p>
C-3 ユニット	<p>1. コロナ禍でも対応できるよう、室内で行えるレクや個別レクを実践する。</p>

目標	<p>2. 季節感のあるユニット環境を目指す。</p> <p>3. 感染症等、ユニット内の対策に気を配る。</p>
評価	<p>1. 緊急事態宣言・まん延防止処置等で外出レクや合同レクが行えず、食事レクが中心で寂しいレク内容となってしまった。しかし、入居者に食べたいものを聴き、提供し楽しんで頂いた。</p> <p>2. 季節ごとにユニット内の飾りを変え、変化のある環境作りを心掛け気付いてもらえた。また、レクの写真を貼り観て頂いた。</p> <p>3. 適宜アルコール消毒、ユニット内の換気に気を付け感染症防止に努めた。幸いユニット内で感染症がうつることは無かった。</p> <p><その他></p> <p>・コロナによる日常生活の刺激の少なさもあり、利用者の ADL の低下を感じた。</p> <p>・次年度の目標に取り入れたい。</p>
C-4 ユニット目標	<p>1. 一人一人に合わせた活動を提供し、楽しく笑顔で生活していただけるようなケアを心掛ける。</p> <p>2. 季節感のある環境作りやコロナ禍の中でできるレクを企画し、活気のあるユニット作りを心掛ける。</p>
評価	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに声掛けを行い笑顔は引き出せたと思うが、個人に合わせた活動は提供できなかった。 ・普段の業務に時間がかかってしまいできなかった。 ・一人一人に合わせた活動は、一部の方には楽しむことができても他の方にはあまり好評ではないレクもあった。 ・身体的に無理になりできなくなったケースもあったため引き続き楽しめる事を考えたいと思う。 ・ユニット内では笑顔はたくさん見られたと思う。活動の提供としては人それぞれ好みがあり難しかったが、テレビのチャンネルで時代劇が好きだったり、歌の番組が好きだったり、観ている方に合わせたチャンネル選びは出来たと思う。 <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節感のある環境作りは出来なかった。同様にレクも思うように発想が出来なかった。体操はラジオ体操だけでなく他の体操も取り入れてみた。 ・月ごとにユニットの飾りつけや雰囲気を変えていき、入居者の方には喜んで頂けたと思う。 ・入居者にも手伝って頂き飾りつけを作って頂いたが、レクの計画はあまりいいアイデアが思い浮かばなかった。 ・何とかレクは企画したが、活気があったかどうかは微妙であった。

通所介護事業報告書

1. 事業概要

特養併設型の通所介護事業所として、要介護・要支援者を対象に通常型のデイサービスで日帰り介護をし、在宅での生活が維持できるよう支援しています。また、総合事業「交流型」通所サービス「運動型」通所サービスを行い介護予防事業の一端を行っています。

2. 月間利用者数

令和 2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	497	489	492	514	450	458	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	457	399	394	324	363	398	5,235
令和 3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	415	419	396	447	370	411	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	416	441	430	391	276	408	4,820

3. 介護度別利用者数

(3月末日現在)

要介護度	事業対象	要支援	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5
令和 2年	12	5	14	11	5	5	3
令和 3年	8	7	15	9	8	4	3

4. 事業所で特別に行ったこと

- 利用者のお誕生日に、お花・写真のプレゼント。
- 新年会、節分、ひな祭り、お花見、夏祭り、クリスマス会などの季節行事。
- 敬老の日前後に、「感謝祭」を開催。他部署の職員にも加わってもらう。
- さつま芋・野菜・花等の園芸活動や、桜・バラ・コスモス観賞のドライブ。=中止
- 各種舞踊やマジック、朗読会などのボランティアをお招き。=中止

5. 職員の状況

(3月末日現在)

職名	人数		兼務の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
相談員(管理者)	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
相談員	1			男	介護支援専門員、介護福祉士
介護職		3		女	介護福祉士
介護職		2		女	
看護師	1	2		女	看護師、准看護師
運転手		2		男	普通自
合計	3	9			

6. 目標に対する自己評価

通所 目標①	感染症対策を徹底し、安心して利用してもらえる居心地の良い環境作りに努める。
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク、手洗い、消毒、換気等を徹底する。 ・ソーシャルディスタンスを保ちつつ楽しめるレクリエーション等を企画する。 ・職員の資質の向上に努める。 ・接遇向上に取り組む。
評価	<p>感染対策については、できる範囲の最善を尽くしていた。利用者人数も少ないので、間隔を空けて過ごして頂くことができた。</p> <p>職員の研修は新型コロナウイルスの影響によりほとんど行えなかった。</p>
通所 目標②	広報活動に努める。
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「ほほえみだより」を作成する。 ・法人のホームページを活用する。 ・居宅介護支援事業所へ広報する。
評価	<p>ほほえみだよりは人手が足りないため作成時間が取れずに2ヶ月分を1枚にしたこともあったが現在も継続している。ホームページは活用できていない。</p> <p>居宅介護支援事業所への広報活動はDM作成時間が取れずできていない。</p>

在宅介護支援センター事業報告

1. 事業概要

在宅で生活しているお年寄りが、日常生活を営むために必要な保健医療サービス又は福祉サービスの適切な利用をすることが出来るよう計画を作成すると共に、市からの事業受託にて独居高齢者等の実態把握や介護サービス啓発のための事業などを行っています。

2. 月間利用者延数

令和 2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	205	211	205	215	211	218	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	222	224	220	212	219	216	2,578
令和 3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	241	250	257	255	258	256	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	255	263	267	275	273	274	3,124

※上記数(令和3年度)は要介護+要支援(総合事業利用者含む)。

3. 介護度別利用者数

(3月末日現在)

要介護度	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
令和2年	23	18	84	47	18	19	7	216
令和3年	21	24	103	51	23	18	7	247

※上記以外に総合事業(保険外で市へ請求分が25件有り)

4. 事業所で特別に行ったこと

- 県立大学IP演習参画(リモート) 1チーム
- ケアマネジャー合格者実務研修実習生受け入れ 1名
- 出張無料相談会(西楽園、湯けむり横丁)～中断中
- 高齢者サロン(自治会勉強会)でのお手伝い～無し
- 指扇地区社協学習推進部会出席 6回
- 指扇地区社協高齢者部会出席 6回
- 指扇地区社協理事会出席～中断中
- 一人暮らし高齢者世帯見守り訪問(随時)
- オレンジカフェ(包括三恵苑主催)出席 1回
- ふれあい会食で相談窓口の設置(指扇及び内野地区社協)～中断中
- 西区区民まつりへの出展～無し
- 西区「健幸フェスティバル」参画(10月)
- 包括三恵苑地域支援会議出席
- 劇団にしく参加(打ち合わせ) 1回

5. 職員の状況

(3月末日現在)

職名	人数		兼務 の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
センター長 (管理者)	1		○	男	主任介護支援専門員
ケアマネ	1			女	主任介護支援専門員 社会福祉士 介護福祉士
	2			女	介護支援専門員 介護福祉士
	1			男	介護支援専門員 介護福祉士
		1		女	介護支援専門員 社会福祉士 介護福祉士
合計	5	1			

6. 目標に対する自己評価

支援センター 目標①	報酬改定に連動した体制強化。
重点課題	利用者増数について昨年度は目標達成。報酬改定で担当利用者限度数が一定の条件でケアマネ一人当たり5件増が可能となったことに伴い、各様式記録のICT化に着手し能率化と共にサービスの質向上を図る。
評価	利用者増数については継続維持。年度末に上限に達す。事務業務が事務所にてまかなえていることを理由に上限超を届け出済。ICT化については法人全体の歩調に合わせることで推移中。
支援センター 目標②	福祉機関として地域に貢献し、事業所の存在を地域に定着させる(継続)。
重点課題	地域活動が殆ど行われなかった昨年度をふまえ、今年度の地域の動きに敏感になり積極的に関与・貢献する。
評価	2月の感染拡大ピークを含め、今年度もコロナ禍にて活動はほぼ皆無に終わる。指扇地区社協で行われている部会(2部会)には委員出席しており、活動再開の情報は随時把握できる関係継続できている。

地域包括支援センター事業報告

1. 事業概要(実績)

	地域活動	ネットワーク構築	認知症サポーター 養成講座、その他
R3 4月			
5月		・地域支援会議 (書面開催)	
6月		・西区地域包括連絡会 (書面開催)	・オレンジスタイルおうぎ
7月	・アジサイの会指扇 (指扇公民館)		
8月			
9月			・認知症サポーター 養成講座:西楽園
10月		・地域支援会議 (書面開催)	・西区老連] グラウンドゴルフ大会 ・さいたまシニア グラウンドゴルフ大会 ・健幸フェスタ (指扇公民館) ・健幸フェスタ (内野公民館)
11月	・イキイキ下宝来サロン (下宝来自治会館) ・グランドマスト西大宮	・西区地域包括連絡会 ・指扇地区民生児童委員 連絡協議会	
12月	・アジサイの会指扇 (指扇公民館) ・秋葉寿会 (秋葉自治会館)	・指扇地区社協見守り部会	
R4 1月			
2月			
3月			

2. 月間利用者数

令和 2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	
	415	440	469	462	449	456		5,471
令和 3年	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	450	465	465	454	471	475	5,703	
令和 3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月		合計
	456	426	470	476	469	482		5,703
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
489	491	486	488	480	490			

3. 職員の状況

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
管理者・社会福祉士	1		○	男	社会福祉士 介護支援専門員
社会福祉士	1			男女	
主任介護支援専門員	3			女	介護支援専門員 介護福祉士
看護師	3			女	看護師 介護支援専門員
生活支援コーディネーター		1		男	
事務員	1		○	女	
合計	10	1			

4. 目標に対する自己評価

包括目標①	オレンジカフェの新たな開催場所や開催方法を考える。
重点課題	現在、新型コロナウイルスの影響で、オレンジカフェは、今まで開催していたケアローソンやラヴィーレ西おおみやの会場が使用できなくなっている。そのため、新たな開催場所の確保と感染予防に配慮した開催方法を検討し、オレンジカフェを開催する。
評価	オレンジカフェについて、新しい場所で開催するため場所の確保を目指していましたが、場所が見つからず屋外で一度開催した。屋外での開催は天候に左右される等の課題があり、今後継続するかは検討中とした。
包括目標②	サロン再開の支援を支援する。また、サロンが再開するまで、チラシ等を利用し自宅でできる運動、消費者被害の情報提供を行なう。
重点課題	現在、新型コロナウイルスの影響で、サロンが中止されているところが多い。サロン参加者からは、運動不足や体力低下の声が聴かれる。サロンの参加者へは消費者被害の情報が届かないとなっている。そのため、サロンの再開を支援し、再開するまでは、チラシ等を利用し自宅でできる運動、消費者被害の情報提供を行なう。
評価	サロンや民生委員協議会に出席し運動に関するチラシや消費者被害の情報提供を行った。新型コロナウイルスの影響で活動が滞ったことや民生委員の改選があったこともあり、以前と比べ民生委員協議会内での地域包括支援センターの認知度が低くなったと感じている。再度、民生委員へ地域包括支援センターの事業を周知し関係を強化していく。